

3Dデータを身近なものに

千代田測器

ICTというキーワードが当たり前のように使われるようになった昨今、千代田測器（東京都台東区、平野啓太郎社長）は、手軽に普段の建設施工現場で3Dデータを活用できる計測システム「測構ナビ3D」を開発した。平野社長は「3Dデータのハードルをもっと下げて、普段から慣れ親しんでもらえれば」と考えている。

出来形管理要領（案）にも認め



られたトプコン製「Layout Navigator LN-100」と接続し、簡単に素早く施工できるシステムを構築。手元の画面を重機側にもWiFiで飛ばし、現場の中で「見える化」を実現。駐車場やコンクリート打設面の数ミリの水勾配の確認も簡単にできる。iConstruction・ICT施工などの手助けを行う同社は「測る・造る・魅せる」をコンセプトに、ハードとソフトの両面から一気通貫で現場の3Dデータ活用をサポートしている。